

視野が一気に広がる出会い・やる気に火が付く体験を ～2学期終業式～

12月24日(火) 平成31年度 2学期終業式 学校長式辞から抜粋

2学期の終わりにあたり、2つの話をします。

1つめは、2学期の始業式で、「三木高校にはあいさつができない人が多いのが残念だ」という話をしましたが、覚えていますか。高校生として、きちんと自然にあいさつができるようになってほしい。これから大人として、社会人になっていくみなさんにとって大切だという話をしました。

そのあと、何人かの先生から、声を出してきちんとあいさつのできる生徒が増えたという報告を受けました。また、先日平田小学校の校長先生にお会いしたとき、大村駅から三木高校に向かう生徒が「おはようございます」と気持ちの良いあいさつをしてくれますと言っておられました。さすが三木高生です。ほんのちょっとした心がけで、行動が変わります。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わります。良い習慣は一生の宝です。ぜひ、自分から進んできちんとあいさつができる習慣を身につけましょう。

2つめは、芸術鑑賞会の話です。今年は演劇を鑑賞しました。どんな話だったか覚えていますか。ヘレン・ケラーの話でした。ヘレン・ケラーには聴覚・視覚・言語の3つの障害がありました。しかし、家庭教師のサリバン先生の指導で指文字や言葉を覚えて障害を克服し、世界各地を回って障害者教育や福祉教育の発展に貢献した人です。

ヘレン・ケラーの話の中でも特に有名な場面は、ヘレンが井戸水に実際に触れることで water という言葉の意味を認識する場面です。水を直接触るという経験をとおして、今まで指文字で教えてもらった w-a-t-e-r, water という言葉と実際の水が自分の中で一致して、「water ってこういうことだったのか」という新たな気づきが生まれます。それをきっかけに今までに学んだ文字や言葉が一気に意味を持つものになって、それからヘレン・ケラーはどんどん言葉を覚えていきます。

ヘレン・ケラーが井戸水に触れることで、文字や言葉やその意味を理解して世界が広がったように、私たちにも実は、何かちょっとしたことがきっかけとなって、一気に目の前の視界が開けるような瞬間があると思います。それは教科の授業の中にあるかもしれないし、部活動の中にあるかもしれません。また、学校行事や海外交流の中にあるかもしれません。

ヘレン・ケラーにとっての井戸水のように、みなさんにとって視野や可能性が一気に広がる出会いや、やる気に火が付くような体験をたくさんしてほしいと思います。三木高校の先生たちは、サリバン先生のようにみなさんをしっかりとサポートしてくれます。

大学入試を目前に控えた3年生のみなさんにとっては、冬休みと言っても休んでいる場合ではないのかもしれませんが、でも、焦らず、慌てず、しかし怠らず、有意義な冬休みとしてください。

(校長 高橋信之)